



旅々、姫路。

〈その四〉 考える旅へ

姫路ゆかりの文化人の足跡をたどる

「播磨国風土記」の時代から交通の要衝として栄え、独自の風土が育まれてきた姫路。近代以降は優れた学者や文学者を多く輩出しています。近代日本の精神を支えた学者たち、日本人の心を描き出した文学者たちの故郷を訪ね、足跡をたどってみてはいかがでしょうか。

司馬遼太郎ゆかりの地 廣畑天満宮

馬遼太郎(大正12年(1923)〜平成8年(1996))の本名は福田定。福田家は祖父の代まで姫路市広畑に住んでいました。天満大神(菅原道真)、蛭子大神、春日大神を祭神とする廣畑天満宮には祖父惣八と父・是定の玉垣が残っているほか、境内には司馬遼太郎の文学碑が建てられています。碑には「祖父惣八は播磨人である。姫路市浜寄りの郊外の広という村の出身で…」という司馬遼太郎の「歴史と小説」の一文が刻まれています。



福田是定の玉垣



司馬遼太郎の文学碑

姫路市広畑区北野町2-3
JR「英賀保」下車西へ徒歩約10分。または山陽電鉄「夢前川」下車夢前川沿いを北へ徒歩約10分
☎079-236-0853



オススメ PICKUP!

平成28年夏にリニューアル!

姫路文学館



播磨ゆかりの学者・文学者を顕彰する姫路文学館は、安藤忠雄の設計によることでも知られています。北館では姫路城や播磨国風土記の歴史を紹介するほか、ユニークな仕掛けのある「こぼしの森展示室」も。壁やテーブルにちりばめられた言葉にタッチすると、作家らが残した印象的な「こぼし」が現れます。南館には司馬遼太郎記念室やカフェもあり、思い思いの時間が過ごせます。

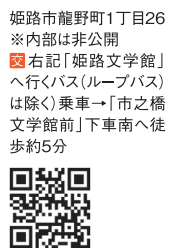
姫路市山野井町84
☎10時〜17時(入館は30分前まで)
☎月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土・日曜日は除く)、12/25〜1/4
☎大人300円、高校・大学生200円、小学・中学生100円
※特別展は別料金。南館は無料
☎神姫バス姫路駅北口9・10・17・18番乗り場出発のバス(いずれも可)に乗り→「市之橋文学館前」下車北へ徒歩約4分。または同6番乗り場から城周辺観光ループバス乗車→「清水橋(文学館前)」下車西へ徒歩約3分
☎079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp



初井しづ枝が暮らした家

江戸時代中期には「英賀屋」の屋号で両替商を営んでいたとされ、最も古い母屋は弘化元年(1844)の建築。旧西国街道の風情を今に伝える立派な佇まいで、市の都市景観重要建築物等に指定されています。

姫路を代表する歌人初井しづ枝(明治33年(1900)〜昭和51年(1976))は夫の勧めで作歌を始め、24歳のときに北原白秋に師事。白秋の美意識と抒情性を受け継ぐ直系の弟子として歌壇の注目を集め、凛とした歌風と容貌から「姫路の孔雀」といわれたことも。生涯、姫路を離れることなく旺盛な作歌活動を続け、短歌の普及と発展に尽くしました。歌稿ノートや書簡などは姫路文学館に収蔵されています。



和辻哲郎の生家

本(の)近代文学に大きな影響を与えた和辻哲郎(明治22年(1889)〜昭和35年(1960))は東京帝国大学哲学科時代に谷崎潤一郎と交流があり、小説家を目指しましたが、やがて学問の道へ。日本人の立場から人間と文化への考察をすすめ、独自の文化哲学、倫理学を完成しました。「古寺巡礼」「風土」など多くの著書があります。生家に立つ碑には「春の来た日に和辻哲郎ここに生まれる」と刻まれています。

ふるさとに寄せる深い思いを情感あふれる文章で綴った和辻。晩年は書齋に市川の河原石を置き、その小石を眺め、ときどき手のひらで転がしながら「自叙伝の試み」を書いたといわれています。



菅原道真伝説 思案橋・菅原神社

船 場川にかかる思案橋の西のたもとに思案橋公園があります。そこは道真が太宰府へ向かう途中に休んだという伝説があり、思案橋の名は道真がこの先を海路か陸路かと迷ったという故事に由来するといわれています。加茂神社の南には、道真が参詣の証として突き刺した杖が自生し、村人が逆木(神)天神として守り伝えた加茂神塚があります。菅原神社には、道真が荒れた海を鎮めるために海に流した木像が浜に漂着し、小坂の里人が持ち帰ってまつったという伝説が残ります。

思案橋公園 姫路市飾磨区思案橋49
☎神姫バス姫路駅北口②思案橋循環→「思案橋東口」下車徒歩約2分
加茂神社 姫路市飾磨区加茂30
☎同バス「加茂」下車徒歩約3分
菅原神社 姫路市広畑区小坂236
☎JR「はりま勝原」下車徒歩約15分



加茂神塚

菅原神社

三上参次 生誕の地

常 徳寺の近くにある幸田家の敷地内に「三上参次先生誕生之處」と刻まれた碑が立っています。三上参次(慶応元年(1865)〜昭和14年(1939))はこの地の漢方医の家に生まれ、5歳で旧姫路藩士・三上家の養子に。東京帝国大学卒業後は史料編纂事業に従事。史料の客観性、信憑性、重要性を重視する「実証的方法論」を導入し、近代日本の歴史研究の基礎を築きました。



オススメ PICKUP!

日曜朝市が人気!

姫路市 農業振興センター



地域緑化と農業振興の拠点として、草花の配布や野菜などの種苗の提供のほか、日曜朝市の開催、収穫体験などの農業体験事業などを行っています。とれたて野菜や海産物、花苗や飲食ブースが立ち並ぶ「農林漁業まつり」は毎年11月に開催。多くの人で賑わいます。

姫路市山田町多田1174-47
☎(見学時間)9時〜16時30分(日曜朝市)原則毎月第1日曜日(1月は休み)8時30分〜10時頃
☎土曜日、日曜日、祝祭日(ただし、日曜朝市や農林漁業まつり開催日など除く)、12/29〜1/3
☎神姫バス姫路駅北口①北条行き→「西山田」下車北へ徒歩約20分
☎大貫経由北条行き→「多田」下車西へ徒歩約15分
☎079-263-2220



姫路市船津町1553
☎JR播但線「溝口」下車東へ徒歩約20分

